

# あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター

住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1

愛知県東大手庁舎 1階

TEL：052-954-6722

FAX：052-954-6993

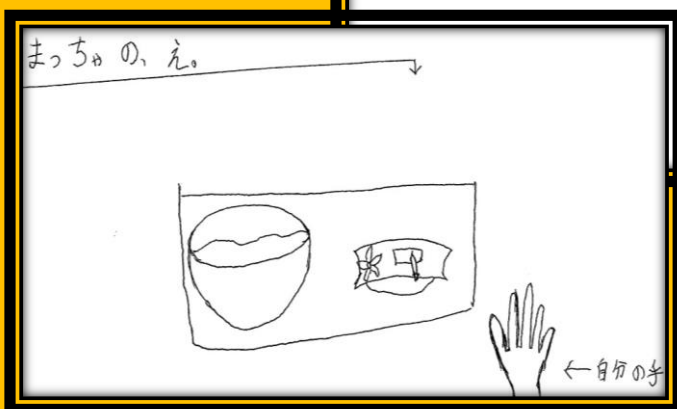
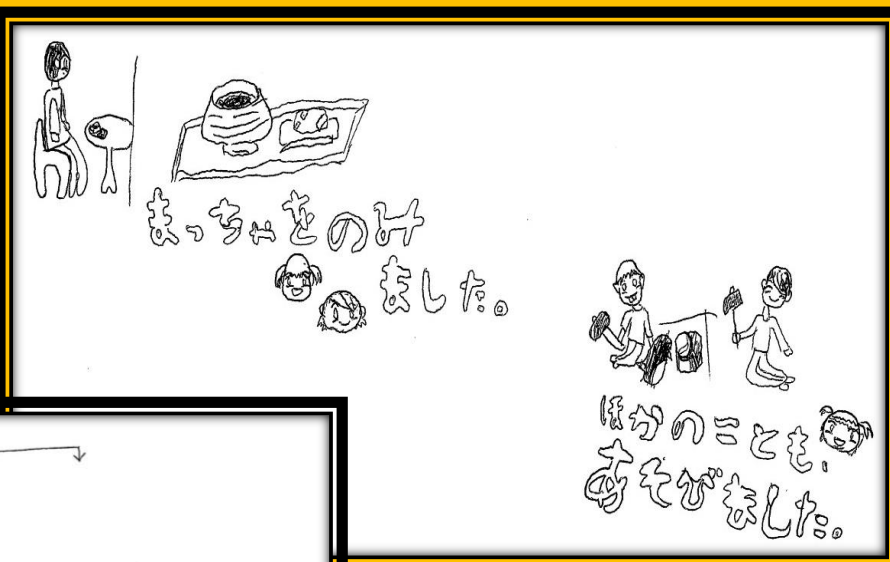
開館：月曜～金曜 10時～17時



ふくしま交流会

@豊橋市

に参加して



↑慶次くん(11才)

←蒼空さん(8才)

## 募集中!

《表紙の絵/作品/写真》

①絵/作品/写真のタイトル、②簡単な説明、③掲載する氏名またはペンネーム、年齢、④連絡先(氏名、メールアドレスまたは電話番号)を明記のうえ、メールまたは郵送にてお送りください。

問合せ先・送り先：メールフォーム➡

●TEL：052-954-6722

●E-mail：aozora@aichi-shien.net

●住所：〒460-0001 名古屋市中区三の丸

3-2-1 愛知県東大手庁舎 1階



《もくじ》

- P1. 表紙・抹茶の絵、募集中!
- P2. 速報 台風19号の被災地で、今
- P3. なごやであそび隊の活動(愛知淑徳大CCC)
- P4. ふくしま交流会(@豊橋市)
- P5. 岩手宮城 気軽にお茶のみ交流会(@東海市)
- P6. 岡崎×いわき・高校生インターアクトクラブ交流2019(@岡崎市)
- P7. あゆみR.P.Net講演会(@名古屋市)
- P8. イベント情報/災害時情報・冊子の紹介

最大級の台風19号によって大きな被害に遭われた被災地の皆様、また避難元のご実家・ご親戚等の皆様に対し、心からお見舞い申し上げます。河川の氾濫、土砂崩れなどで住宅等に大きな被害となり、避難所での生活を余儀なくされていらっしゃるかと思います。これから復旧・生活再建へ向けて、お身体を労わりながらこの困難を乗り越えていただきたいと思います。

連休明けの10月15日に、避難元のご家族や帰還された方々の状況をお尋ねしました。避難されている皆様もご心配かと思うので、その一部を掲載し、故郷の情報として共有させていただきます。

「ご家族は大丈夫でしたか？被害はいかがですか？」とお尋ねに、以下のお返事がありました。

・〔郡山市に実家のあるOさん〕

「幸い実家は高い所にあり、一人暮らしの母も大丈夫でした。電気も水も問題ありませんでした」

・〔南相馬市に実家・兄弟がお住いのTさん〕

「実家と弟のところは大丈夫でしたが、妻の実家は避難しました。住宅は助かりました」

・〔南相馬市へ戻られたKさん〕

「家は床下浸水で済みました。知人の家は床下浸水とハウスにも水が入ってしまって大変です」

・〔福島市へ戻られたKさん〕

「家は大丈夫でしたが、東京に住んでいる息子一家が川の氾濫の危険性で、レンタカーで家へ避難してきました。近くで食料が手に入りにくくて、こちらからたくさん持って帰りましたよ」

・〔福島市へ戻られたKさん〕

「幸い、家も姉妹・親戚も被害はありませんでした。心配してもらってありがとう！」

・〔いわき市へ戻られたSさん〕

「私のところは高台だから大丈夫だけど、毎日片づけの手伝いに行っていますよ。母が住んでいる復興住宅の周辺の好間、平窪、小川地区での浸水がひどくて、母のところは床下浸水で助かったけど、床上浸水1メートルのところもあり、今も水が引かなくて。断水も続き、小中学校が休校している。毎日車で30分くらいかけてあちこちの水くみのお手伝いで、くたくた。今も体が痛くてシップを貼っていたところ。東日本大震災とはまた違った大変さがあるね！車が水没したり、特に高齢の方が大変。水もパンも売り切れていて」

・〔相馬市に自宅のあるHさん〕

「家は海も川もない所にあり大丈夫だけど、

友達や知り合いの家はたくさん浸水していて大変！」

・〔宮城県丸森町に親戚のあるOさん〕

「親戚に電話したら、大丈夫だったって。

でもたくさんの人たちが大変でねえ」

・〔いわき市に自宅のあるKさん〕

「幸い、大丈夫でした。洗濯機が欲しいと聞き手に入れましたが、どなたか運んでくれる人はいませんか？」

・〔いわき市に実家のあるYさん〕

「22日からいわきへ帰ってきます。タオルとかマスク、消毒剤など入手できませんか？子どもたちの文房具もあれば、持っていきたいのですが？」



〔レスキューストックヤード発行〕

2011年3月11日。あれから8年目。毎年、入学する学生たちから「東日本大震災」という言葉は年々、聞かれなくなっていくように思います。震災が起きて、多くの方々が愛知県に避難されました。当時の学生たちがそれを知って設立したのが、「なごやであそび隊」です。自分たちが暮らす“なごや”を知っていただき、ご家族が少しでも楽しく過ごす時間を持てたらと、学生たちが企画する様々な場所に、皆さんと一緒に行きました。

この8年間、福島や千葉に帰られるご家族を見送り、また新たに出会うご家族の方々もおみえでした。皆さんに人気だったのは東山動植物園です。初めて参加された6ヶ月のお子さんも、今はもう小学2年生です。毎年参加してくださり、皆勤賞のご家族もみえます。子どもたち“特別のえさやり”は、どの子も笑顔でワクワクしている気持ちが伝わってきました。



東山動植物園でのえさやり

時が経ち、参加しているどの子も大きくなりました。最初は大学に来て、工作やレクリエーションを楽しんでいた子どもたちも、今は勉強と一緒にしようということで、「一緒に学習しよう！」という企画に変わってきています。

昨年も今年も、企画の大半が学習です。子どもたちは根気よく、学生たちとテキストや日誌をこなしていました。普段、家族の中で勉強が話題になると親子げんかに発展しますが、大学生のお兄さん、お姉さんが隣で親身になって、「どこが難

しい?」「このやり方はね…」と話しかけるので、子どもたちも止めるわけにいきません(笑)。この前も予定のテキストをクリアして、満足げに見せてくれました。

このように、皆さんからのニーズに合わせて関わり方を変えながら、自分たちに何ができるかを考えています。

人は、みんな平等に。



参加した子どもが描いた CCC のイメージ

「なごやであそび隊」の桑山千香子さん(交流文化学部4年 ニックネーム・ちくわちゃん)は言います。「大学1年次は皆さんと交流できることがただただ楽しく、嬉しいばかりでした。活動を継続するうちに、皆さんと楽しむだけでなく、各ご家庭の希望を理解し、よりよい時間を過ごしてもらうことが大切なことだと学びました。毎回交流の別れ際に「楽しかった、また行きたい!」という子どもたちの感想、「次の活動はいつかしら?」という親御さんのお声は、私たちの原動力となっています」

今後を考えると、私たちが子どもたちから学ぶべき時期がきていると思います。大きくなっていく子どもたちからは学ぶものがたくさんあります。学習会と同時に「子どもたちから学ぶ防災」として、私たち大学や学生が大きくなった子どもたちの話を聞き、この地域の防災に向かう姿勢や必要なものを教えていただけたらと感じています。(愛知淑徳大学 CCC 職員 秋田有加里)



## 交流会報告① ふくしま交流会@豊橋市

東三河地域での恒例の「ふくしま交流会」が、9/29（日）に豊橋市のコープあいち豊橋生協会館で行われ、14世帯35名（大人29名・子ども6名）、特に高校生以上（15～20歳）のユース世代が6名参加され、初参加世帯も多く、多彩な顔ぶれとなりました。初参加の人たちは同郷の人たちと挨拶を交わし、ふるさとの話や現在の生活などの情報交換をしていました。

◎**甲状腺エコー検診**：民医連医師や在宅保健師、臨床心理士など専門家による検診・健康相談・心の相談、弁護士や司法書士によるADR等の相談、福島県の避難者支援課や連携復興センターのふるさと相談等があり、参加者はそれぞれのコーナーで順次話し込んでいました。

◎**昼食**：福島の浪江焼そばやおにぎり、芋煮汁など、コープのボランティア等の協力によるおいしい食事を堪能していました。

◎**癒しコーナー**：大好評のアロマハンドトリートメントに予約の名前が並び、西尾の抹茶コーナーでは豊橋技術科学大学の学生メンバーがさわやかにお点前、子どもも大人も抹茶とお菓子を楽しみました。子どもたちはボランティアの大学生と楽しく遊んでいました。

【**参加者の感想**（初参加とユース世代の参加者のアンケートから抜粋）】

初めての参加でしたが、地元の方々といろいろなお話ことができました。また都合が合えば参加させていただきます。／とても親切にお話をいただき、楽しい時間を過ごすことができ、また参加したいと思いました。（福島市→豊橋市 I.T/I.S）



久しぶりに福島の話が聞けて、なつかしくなりました。甲状腺の検査で自分の健康を気にするきっかけをいただけたので、ありがたかったです。／愛知県に福島から来た人たちが思っていたよりたくさんいて、驚きました。お話をしていると、福島の地名や建物名が出てきて、なつかしいなと思いました。（福島市→西尾市 S.H/S.Y）

甲状腺の検査ができて良かった。

子どもたちも遊べてよかった。

（富岡町→豊橋市 H.M）



今回の交流会に参加させていただき、ありがとうございます。周りの方ともいろんな話を聞いて、うれしかったです。お昼の浪江焼きそばや西尾の抹茶もとても美味でした。また機会があれば行こうと思います。／本当は今日行くか行かないか迷いましたが、行くことにしました。行ってみた感想は、楽しそうでした。自分から声をかけることはできなかったけど、見ていて楽しそうな話をしてくれたので、気軽に作業することができて安心しました。チームワークで料理できていたので、ああ、すごいなあと思いました。また参加しようと思います。

（いわき市→新城市 S.S/S.T）

初の参加で、たくさんの美味しい料理を食べて、満足でした。年が経ってもこういった形で、福島の思い出などを忘れないような話や料理があって、本当に良かったです。また機会があれば、参加したいです。（富岡町→豊橋市 A.S）

## 交流会報告② 岩手宮城 気軽にお茶のみ交流会@東海市

10/6（日）に東海市のしあわせ村にて、「岩手宮城 気軽にお茶のみ交流会」が開催され、7世帯8名（初参加1名）が参加されました。

この会は実行委員会で内容を決めて、年2回開催されます。まず近況を語り合い、その間に温灸を受ける方、調理室でランチの準備をされる方等希望に応じ分かれて、途中ランチ交流をして、その後も引き続きお喋りして、最後は健康法の笑いヨガをやって解散します。



今回はお天気にもめぐまれ、聚楽園の大仏さんを見に行きました。いつも名鉄聚楽園駅から見える大仏を横にしながら会場のしあわせ村に行きますが、「一度も行ったことがないから行きたいね」という参加者の声を叶えたものです。足腰が弱いので車いすをお借りし、車いすに乗る人、車いすを押す人、皆さんで助け合いながら到着。大仏と言えば奈良の大仏が一番大きいと思っていた私は、この大仏が日本最大級であることを初めて知りました。

「大仏さんは何のために建てられたの？」とMさん。ある実業家が災害に負けない日本一大きい大仏を発案し、寄付金と私財を投じ昭和2年に建立されました。当時料理旅館「聚楽園」や名古屋市教育水族館等の大規模建築物が相次ぐ火災、水害で失われたのだそうです（東海市観光協会パンフレット）。皆さんそれぞれ、どんな思いでお参りされたのでしょうか？

初めて参加されたSさんは、今日も参加のNさんと同じ市に住んでおられます。2年前に仕事を辞めたので、これからは交流会に参加したいとのこと。Mさんから小牧の交流会にも誘われ、Nさんと「一緒に参加しようね」、お互いに「一人暮らしなので、遊びに来て」と会話が弾み、帰りも一緒に帰られました。



ランチ交流は、いつもの「絆カフェ」の皆さんとSさんが腕をふるわれ、豪華メニュー（豚肉のしゃぶしゃぶ、新米、漬物、持ち寄り果物等）に、Tさん手作りのニンジンと明太子炒めとイクラの大根なますがテーブルを飾りました。お持ち帰りはボランティアのアンパンマンパン。美味しい手作りのランチには、いつも感謝です。

（愛知県被災者支援センタースタッフ 仲田）





2012 年夏より実施した「福島みんな！あそびにおいでんプロジェクト」は、毎年春休みと夏休みに開催してきました。対象者は親子、小中学生、高校生と幅広く様々な年齢層を岡崎市に招待しました。当初は、保養を目的に掲げておりましたが、年々開催する度に福島の人々の原発事故に対する心理的状況を理解している私が非常に心苦しく、「交流」に重きを置くようになりました。「交流」という言葉が支援する側、される側の線引きをなくし、子ども達にとっても大人にとっても協働できる絶好な機会となるためです。

この夏は、いわき勿来(なこそ)ロータリークラブがスポンサーである福島県立磐城農業高校インターアクトクラブを岡崎市に招待し、岡崎南ロータリークラブがスポンサーである私立岡崎城西高校インターアクトクラブと交流することで、両校インターアクトクラブの親睦を深めることを目的に企画しました。主催は、2012 年夏から支援を継続してくださっている岡崎南ロータリークラブです。いわき側では勿来ロータリークラブにご協力いただきました。8月5日より3泊4日。いわき市より中型観光バスで岡崎市入りし、生徒17名、引率4名が愛知県青年の家に宿泊し、様々なプログラムを体験しました。



8月6日：「未来会議@青年の家」で両校メンバーが打ち解けあい、両インターアクトクラブ合同で発達障害の福祉について勉強し、「NPO 法人子

どもの発達を支援する会きらら」の発達障害のある子どもたちを招き、遊びや宿題を通じた交流、カレーライスを作り子ども達と一緒に食べ、大人も高校生も福祉ボランティアを実践しました。



8月7日：三河大島にフェリーで渡り、海での自然体験や海辺でバーベキューをしながら親睦を深めました。夜は、岡崎市立美合小学校読み聞かせボランティア・こあらグループによるお楽しみ会でひとときを過ごし、地域の親子とも絵本を通じて交流し言葉を交わしました。

お互いの高校のインターアクトクラブ活動を理解して学ぶことで、今後の活動に生かされます。特に発達障害のある子ども達の対応を勉強したことは、福島でも大いに役立つこととなるでしょう。さらに、親睦クラブ締結をした岡崎南ロータリークラブと勿来ロータリークラブのみならず、若い世代の交流により、今後のいわき市、岡崎市の交流を促進することが期待されます。

台風 19 号による甚大な被害がいわき市北部にもたらされました。支援を申し出てくださいました岡崎南ロータリークラブの皆様には心より感謝するとともに、恩返しをしなければと思う日々はまだ続きます。

(「福島みんな！あそびにおいでんプロジェクト」 小松恵利子)

## 講演会「原発事故は、終わっていない」を聴講して 主催：〔当事者団体〕 あゆみ R.P.Net

あゆみ R.P.Net は、福島第一原発事故により被害を受け、または原発事故を原因として避難を余儀なくされた被害当事者が、平穏な暮らしを取り戻すための活動を行うことを目的として、平成 25 年 2 月に設立された原発事故被害者支え合いの会です。

9/ 8(日)に名古屋都市センターで催された講演会「原発事故は、終わっていない」は二部構成で、第一部は「原発事故の避難は可能か」(吉田千亜氏)、第二部は「原発事故避難訓練」(あゆみ R.P.Net)で、あゆみ R.P.Net の正会員、賛助会員、一般の方等約 60 名の出席でした。

### 講演①「原発事故の避難は可能か」(吉田千亜氏 (★) フリーライター)

(★)東日本大震災発生時は 2 歳と 6 歳の子どもを育てる母親。家庭の事情で避難には至らなかった。

以後、放射能汚染と向き合う母親たちの取材を続ける。著書に『ルポ母子避難』(岩波新書)。

第一部で話された「防災計画」、「オフサイトセンター」、「10 条通報」、「15 条通報」、「安定ヨウ素剤」等、原子力災害について言葉としては知っていても、改めて多くのことを知ることができました。

#### ◆安定ヨウ素剤のこと

愛知県は原発からの距離が遠いため、名古屋市の「防災計画」で安定ヨウ素剤の記載はないかと思いましたが、私も調べてみたところ、配布や服用について記載がありました。一度は自分の住んでいる市町村の「防災計画」についても、確認の必要があるように思います。

#### ◆「情報」のこと

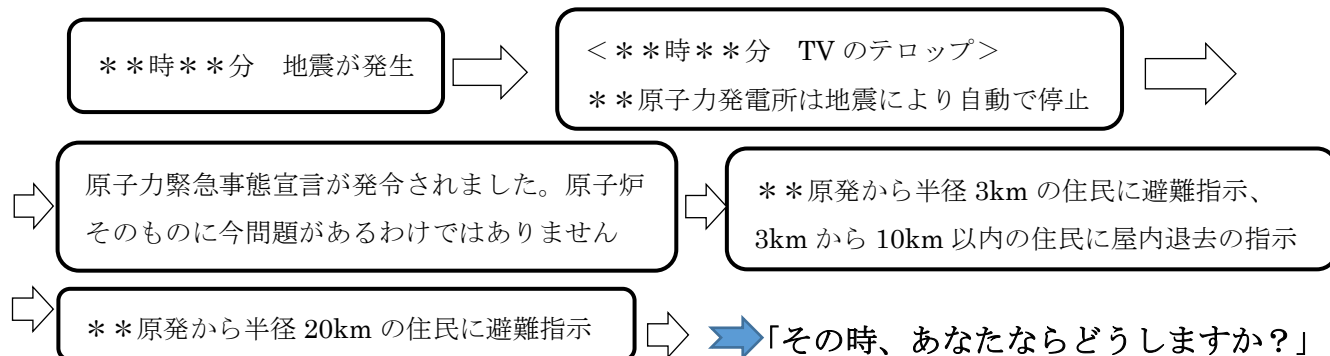
当時の混乱の中、的確な情報が必要な人に伝わらなかったと話されました。原発が爆発した 3 月 15 日は公立高校の合格発表が行われ、学校によって生徒たちは、徒歩、自転車で合格の確認に向かったそうです。爆発による放射性プルームがどう拡散されるか、「情報」が広く示されていれば、そのようなことは起こりえなかったと思います。

#### ◆原発事故の証拠となるものが、次々に見えなくされていること

例えばフレコンバックが見えなくなり、モニタリングポストが無くなり、住んでいない町に復興拠点をづくり、人の住めない町は無くなったのだから、避難者はいなくなった、彼らは移住したんだと。そんな構図を、吉田さんは心配していました。

### 講演②「原発事故避難訓練」(あゆみ R.P.Net 副代表)

副代表は、いつもは 2 人の子を持つ笑顔が素敵なお父さんですが、講演では真剣そのものでした。実際にご自身が体感したことを、参加した皆さんに知ってもらおうとの思いから、今回の避難訓練を計画されたと思いました。



まだまだ続きますが、自分が当事者の立場なら、どう判断し、どのように決断をしなければならないか、当事者の葛藤がわずかでも分かったように思いました。(愛知県被災者支援センタースタッフ 今井田)

## 11月イベント情報

| 開催日           | イベント名                               | 内容（主催）                                                                    | 最寄駅                           |
|---------------|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| 11月13日<br>(水) | みそ汁会<br>(参加費 300 円。詳細は同封チラシ参照)      | リニューアルオープンした籠田公園(岡崎市)で、おにぎりとおたくさん味噌汁をいただきます。どなたでも参加OK。(主催：あそびにおいでんプロジェクト) | 「東岡崎」駅徒歩15分、公園地下駐車場(有料)       |
| 11月20日<br>(水) | 里山を歩きましょう<br>(参加費 300 円。詳細は同封チラシ参照) | 名古屋・東山一万歩コースを2時間歩きます(主催:HAT-J 東海支部)。申込締切:11/16(土) 申込先:チラシに                | 集合：AM9:30<br>地下鉄東山線・東山公園駅西改札口 |

※イベントの一部を掲載しています。

### 災害時情報・冊子のご紹介

#### ①『水害にあったときに』（震災がつなぐ全国ネットワーク編）

浸水被害からの生活再建の手引きです。

＜＊右のQRコードから見るができます＞

#### ②『避難所運営の知恵袋・改訂版』（レスキューストックヤード編）

＊閲覧用が愛知県被災者支援センターにあります。お気軽にご利用ください。



『水害にあったときに』から、

1. 被害状況を写真に撮る
2. 施工会社・大家・保険会社に連絡
3. 罹災証明書の発行を受ける
4. めれてしまった家具や家電を片づける
5. 床下の掃除・泥の除去・乾燥
6. 掃除をするときの服装
7. 復旧のまえに確認をすること



## 編集後記



- ・月1回の笠寺観音でのマルシェで、今回はサツマイモの炊き込みご飯を作ることになった。安城産のさつまいもを頂いて、丁度良かった！と思い品種を聞いたところ、「紅ほっぺ」とのこと。へえ～紅ほっぺというさつまいもがあるんだ、と本気で思っていたところ、メールで「紅あずまの間違いです」と。よく考えれば「紅ほっぺ」ってイチゴの品種だった。(N.N)
- ・台風が10月になり やって来る 信じられない 秋だというに (T.H)
- ・もう20年以上前にボランティアを通じて知り合った方からの宅配便は、丁寧に箱入り娘然と納められた柿と絵手紙。彼女の温かな笑顔が目に残りました。(K.K)
- ・「別れ際に前[秋]の見える美しさは心地よい」(プーシキンの詩)ウクライナは今黄金の秋。(T.K)